

# レトロ・アンティーク 歯科の世界



川崎歯科クリニック

川崎 洋介 先生



【口腔衛生週間(昭和30年)】現在の「歯と口の健康週間」標語は、「よい歯でよくかみよいからだ」

古きをたずねて新しきを知る……。自分の専門とする仕事の歴史を顧みたくなるのは、僕だけででしょうか？仕事熱心だから？それとも、ただの骨董好きにすぎないのでしょうか？

博多で生まれ育った僕が上京したのは、大学卒業後一年経った時でした。その後、家内と出会い、二人でよくお台場でデートをしたものでした。そして結婚してからもよく「台場二丁目商店街(デックス東京ビーチ)」に行っては、子供たちを遊ばせながら夫婦でレトロな雰囲気を楽しんでいました。

そこで、たまたまはるか昔の「ライオン粉歯磨き」の外箱が売られていたのです。一目見たときから「ピュン」と来ちゃいました。そのレトロな箱は、まるで「あなたが歯医者なら私を買いなさい！」と言っているようでした。値段の相場も知らずに家内に「これが欲しいんだけど、買ってイイ？」と尋ね、家内は「またいつもの古物集めだ。しかないなあ」という感じでしたが、5,000円もするこの古い紙の箱を衝動買いしてしまいました。もう10年位昔



【ライオンの歴史を作ったともいえる「獅子印ライオン歯磨」】明治28年に発売。以降、大正～昭和初期までは、現在のようなチューブ式の練り歯磨きは少なく、袋に入ったものが主体でした。

の話です。しかし、しばらくこの「ライオン粉歯磨き」の外箱はお蔵入ります。当時自身の医院が急成長の時代で、法人化、分院設立と大忙しだったため、このお宝は忘れ去られてしまったのです。とは言え結局、高円寺・東銀座・九段の3つの分院の管理が困難になり、色々ありまして、最初の医院だけの振り出しに戻りました。ちょっとゆっくりに、自分を振り返る時間ができたのです。

その頃、映画「ALWAYS 三日月の夕日」が流行り、レトロ・アンティークがブームとなっていました。そこで「ヤフーオークション」を始めるようになりました。主に切手関係(郵趣品)を応札していました。ふと「アンティーク」「レトロ」の分野で「歯」と検索してみると、有るわ、有るわ！レトロ・アンティーク 歯科関係の数々……ザックザック！その瞬間、お蔵入りしたあの「ライオン粉歯磨き」の外箱が頭をよぎりました。もともと切手収集に関しては個人の情報誌・オークション誌も出していたほどですから、それからはご覧の通り「レト



【今治薬(コンジシイ;丹平製薬)(昭和5年のポスター)】歯が痛い時に、歯に直接つける、痛み止めの薬。明治27年に発売。100年をこすロングセラー商品として現在に至っております。

ロ・アンティーク歯科」のコレクションにはまりはじめました。一般の人からすれば、紙屑・ボロであります。家内も「また、ゴミを買って！」と怪訝な目……。でも、知る人ぞ知る「お宝グッズ」なのです。ライオンのホーロ古看板などは、なんと数万円の値段がつきます。もっとも、私がメインに持っている紙もの(古新聞・ポスター・箱・古本など)は安く、300円〜1,000円前後の物が多いです。さすがに万円単位のものだと、「家内や子供にわるいかな〜」「家族で、おいしい食事ができるかな〜」……なんて思ってしまう所が、まだ「通」でないのかもしれない。



【歯の守り神 聖書を読むアポロニア(国際歯科医学連盟会議70年記念;オーストリア;1982年発行の切手)】ペンチ(=抜歯器)には、歯をつかんでいる。歯は、内側から明るく輝き、その徳をたたえ、神聖な姿を際立てている。

素朴で、ノスタルジックで、懐かしく、心が和みます。歴史を振り返り、当時の時代・文化・社会背景へと思いを馳せつつ、明日の仕事の糧にできればなあ、と思う今日この頃です。